

セイワ エアレス式エンジンタイヤ吹付機

タイヤエース

型式 TA-500GX/TA-900GX




取扱説明書

ご使用前にこの「取扱説明書」をよく読み正しくお使いください。誤った取扱は機械の故障や大変な事故につながります。
機械を操作する前にいつでも見られるように大切に保管してください。

この度は、**SEIWA**エアレス式エンジンタイル吹付機「タイルエース」
をご選定いただきまして厚くお礼申し上げます。

- 当機のご使用に際しては、この取扱説明書を熟読していただき、安全にご使用ください。
- 品質、性能向上又は安全上、部品の変更を行うことがあります。その際は本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 不明な点やお気付きの事がございましたら、お買い上げ店、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。
- 文中の記号について

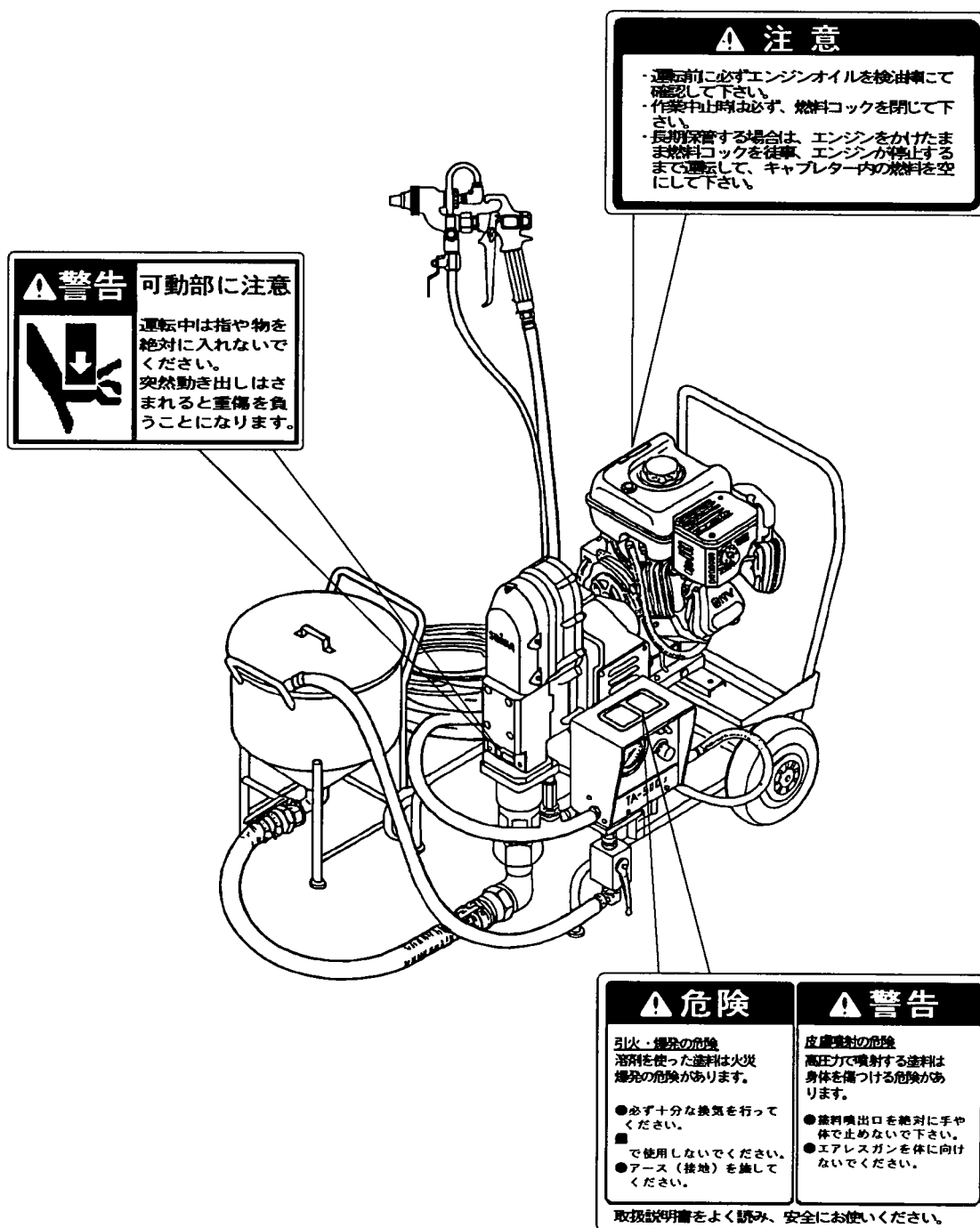
 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

| | |
|---|--|
|  危険 | 適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う危険性が高いことを示します。 |
|  警告 | 適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う可能性が高いことを示します。 |
|  注意 | 適切な事前注意をとらないと 傷害又は製品の重要な損傷を招く可能性があることを示します。 |

目 次

| | |
|-----------------------|-------|
| 安全のために | 1～2 |
| 1 使用上の注意 | 3 |
| 2 使用諸元表 | 4 |
| 3 各部名称・機能及び、基本操作 | 5 |
| 4 作業操作手順 | 6 |
| 4-1 作動点検と作動確認 | 6～7 |
| 4-2 作動開始 | 8～9 |
| 4-3 作業中断・停止 | 9 |
| 4-4 洗浄・終了 | 10～11 |
| 4-5 玉吹きガンの操作 | 12 |
| 4-6 パターンの調整 | 12～13 |
| 4-7 洗浄・保守 | 13 |
| 4-8 エアレスガンの操作 | 14 |
| 4-9 クランプノブの使い方 | 14 |
| 4-10 ノズルチップ口径とガンフィルター | 14 |
| 5 上手な買い方と保守・点検 | 15 |
| 6 トラブル対策 | 16 |

警告ラベル貼付位置



△ 注意

警告ラベルが見えにくくなったら新しい物に貼り替え、常に確認できるようにしてください。

安全のために

⚠ 危険

引火、爆発の危険

- 狭い敷地内で、引火性のある塗料(液体)を用いた塗装作業は火災や爆発の危険があります。換気の良い場所で行ってください。
- タバコ、ライターの火、電源スイッチからの電気火花、近くでの溶接、グラインダー作業の火花、静電気による火花放電などは引火源となりますので近づけないで下さい。

ガス中毒の危険

- 風通しの悪い場所、排気ガスがこもる場所では有害な一酸化酸素がたまり、ガス中毒の危険がありますので使用しないで下さい。

⚠ 警告

塗料噴出に注意

エアレスの塗装機は非常に高い圧力が生じます。高圧で噴射する塗料は身体を傷つける危険がありますので次のことを必ず守ってください。

- 人体に向けて絶対にエアレスガンの引金を引かないで下さい。
- 塗装作業を行わない時やノズルチップを外す場合は安全の為必ずセーフティーロックをかけてください。
- スプレー口に指や手を当てたり、のぞき込んだり絶対にしないでください。
- エアレスガンの改造をしたり安全装置(セーフティーロック・安全ガード)を取り外すことはしないでください。
- 塗料ホースを強く引っ張ったり無理に曲げたりしないでください。又、外観に傷が付いたり、折れ曲がったり、つぶれたりしている塗料ホースは破裂して塗料が吹出す恐れがありますので絶対に使用しないで下さい。
- セーフティーロックが効かない物や、引金が戻らない物及び接続部分、エアレスガン、塗料ホースから漏れ出しがあった場合場合は直ちに作業を中止してください。又、漏れ出している部分を手足や体で止めるようなことは絶対にしないで下さい。
- 接続部分は漏れがないようにしっかり締付けて下さい。漏れが発生した時は、直ちに機械を停止させ、リターンコックを開き、塗料圧力を下げてください。
- 異常を取り除く場合は必ず機械を停止させ、全ての圧力を抜いた後行ってください。
- 必要以上に塗料圧力を上げないで下さい。

注意

設置場所に注意

周囲の建物、車等大切な物に飛散した塗料が付着しないよう塗装現場の養生(養生ネット張り、保護カバー、シートがけ等)は必ず行ってください。ホース破裂による塗料の飛散にも備えてください。

- 火災の防止やエンジンの排気が十分にされる為に、使用中は建物及びその他の設備から1 m以上離して放置してください。
- 雨、濡れた場所、蒸気等湿度の多い場所での保管、使用はしないで下さい。感電事故、電気回路の故障、錆付きにつながります。
- 本機に直接塗料を吹付けたり、ゴミ、ホコリの多い場所では使用しないで下さい。エンジンの排熱が不完全になり故障の原因になります。
- 本機は平坦で安定した場所に設置して下さい。傾けたり、立てたりした状態での使用はエンジンの焼付や故障の原因になりますのでしないでください。
- 夏場直射日光の当たる場所に設置して長時間運転しますと、エンジンが止まる場合がありますのでその場合は日陰に設置してください。
- 関係者以外やお子様は近づけないで下さい。誤った操作やいたずらにより思わぬ事故を招きます。

ガソリン給油時の注意

- エンジンを必ず止め、タバコ、たき火等の周囲の火の気がないことを確認し、こぼれないようにゆっくりと給油してください。
- ガソリン給油後はタンクキャップを確実に閉めてください。緩んでいると運転中ガソリンがこぼれ、気化したガスにより引火する恐れがあります。

溶剤使用注意

- 本機は水性塗料吹き付け用の機械です。
溶剤塗料を使用する場合は静電気やクラッチ開閉時の花火に引火する恐れがありますので引火性の高い溶剤は絶対に使用しないで下さい。やむを得ず引火性の低い溶剤を使用する場合でも静電気や花火には十分注意し、必ず導電性のあるホースを使用し、本機及び被塗装物にアース(接地)を施して下さい。



医療処置

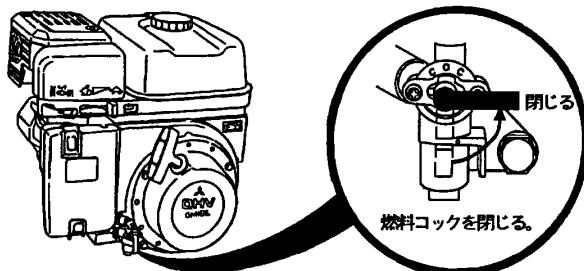
- たとえどのような塗料であっても皮膚を傷つけた場合は、軽傷として扱わず直ちに医師による適切な治療を受けてください。又、どのような液体によるものかの的確に教えてください。

1 使用上の注意

⚠注意

使用しない時や、移動時

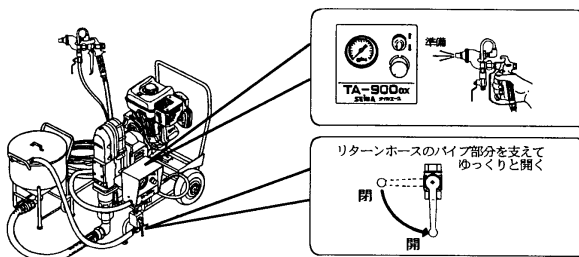
- 必ずガソリンフックを閉めて下さい。
タンク内のガソリンがエンジンの中に
流れ込み始動できなくなる事があります。
この場合、キャブレター掃除やエンジン
オイル交換が必要になります。



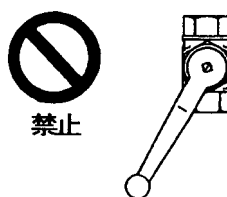
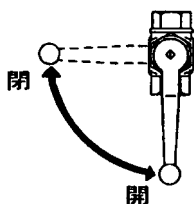
- エンジンの取扱について、詳しくは別冊(同梱)の「エンジンの取扱説明書」をご覧ください。

圧力抜き

- 圧力がかかっている状態でリターンコックを開く時は、操作スイッチを「準備」の位置にし、あらかじめエアレスガンより塗料ホース内の圧力を抜いてからリターンホースのパイプ部分を支え、ゆっくりと開いてください。一気に開くと残圧で塗料が勢いよく吹出し、周囲にかかる事があります。



- リターンコックの開閉は確実に行ってください。中途半端な状態で使用しますとコックパッキンの耐久性が著しく低下します。



塗料ホース

- 標準仕様のホース以外で、極端に短いホースでは異常高圧となりホースのパンク、あるいは機械の故障の原因となりますのでφ12×30m以上でご使用ください。
- 溶剤塗料の吹付けは標準仕様のホースでは使用できません。耐溶剤性と導通性のあるホース(セイワ商品名：グリーンホース、ブルーホース)をご使用ください。

⚠注意

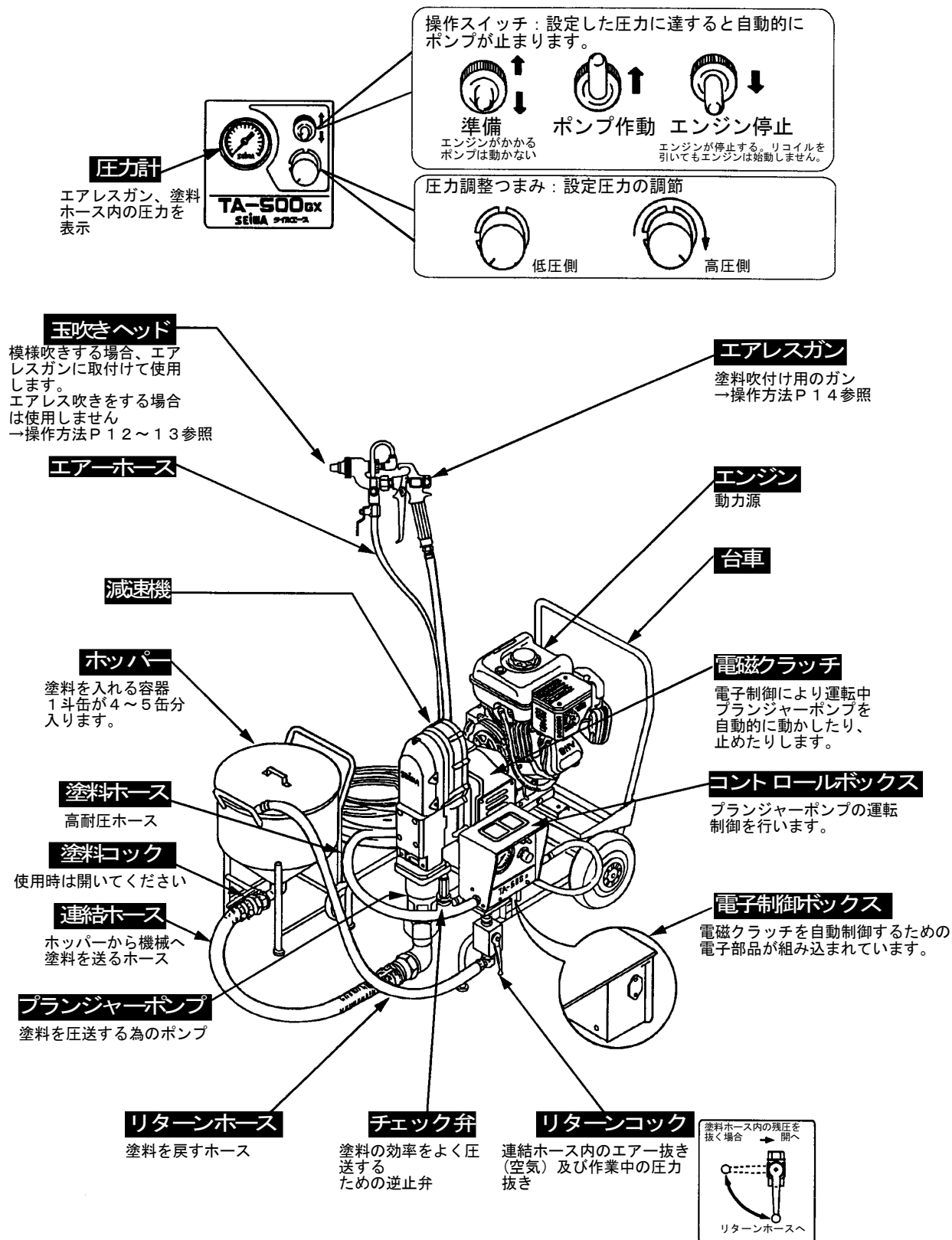
溶剤塗料の吹付けは静電気による引火防止の為、本機及び被塗装物に接地(アース)を施してください。

2 使用諸元表

| 型 式 | TA-500GX | TA-900GX |
|---------------|--|--|
| 最大圧力 (MPa) | 1 8 (183kgf/cm ²) | 1 4 (142kgf/cm ²) |
| 最大吐出量 (L/min) | 6 | 9 |
| 駆動方式 | OHVガソリンエンジン(オイルセンサー付) | |
| 定格出力 (PS/rpm) | 4. 5 / 1 8 0 0 | |
| 圧力制御方式 | 歪ゲージ式電子制御 | |
| クラッチ | 電磁クラッチ | |
| 電源/方式 | エンジン発電式 | |
| 重量 (k g) | 6 0 | 6 2 |
| 外寸法 (H×W×L) | 8 0 0 × 5 3 0 × 7 3 0 | |
| 付 属 品 | リターンホース 工具一式 エアレスガン (SG 2 4 V) 玉吹きヘッド (ATH-2) ラバーホース (1 6) 2 0 m ラバーホース (1 2) 2 0 m ラバーホース (9) 2 m RH 7-4 5 m (金具付き) ホッパー T-1 0 0 (1" 1/2) 連結ホース (1" 1/2) ロータリーチップ 3 6 4 0 中間ジョイント (1/2) 中間ジョイント (3/8 × 1/2) アースリードセット | リターンホース 工具一式 エアレスガン (SG 2 4 V) 玉吹きヘッド (ATH-2) ラバーホース (1 6) 2 0 m ラバーホース (1 2) 2 0 m ラバーホース (9) 2 m RH 7-4 5 m (金具付き) ホッパー T-1 0 0 (1" 1/2) 連結ホース (1" 1/2) ロータリーチップ 4 3 4 0 中間ジョイント (1/2) 中間ジョイント (3/8 × 1/2) アースリードセット |

3 各部名称・機能及び基本操作

コントロールボックス正面



4 作業操作手順

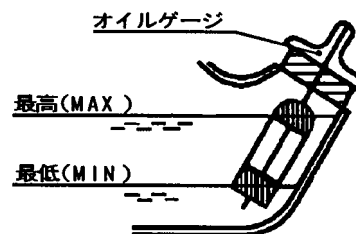
4-1 作動点検と作動確認

- ①燃料の確認
(無鉛ガソリンを使用)



- ②エンジンオイルの確認

エンジンオイルは[10W-30]です。オイルゲージのマークの所までオイルが入っているか、汚れていないかを調べ、不足の場合はポンプ上部の給油口よりオイルを補充してください。



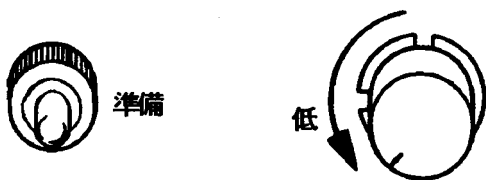
- 現地の外気温度に適合した粘度、品質のエンジンオイルをご使用ください。詳しくは別冊「エンジン取扱説明書」をご覧ください。
オイルが汚れていたり、少なかったり、また品質の悪いものを使用しますと、エンジンの寿命を短くします。常に良質できれいなオイルを規定量保つよう注意してください。

⚠注意

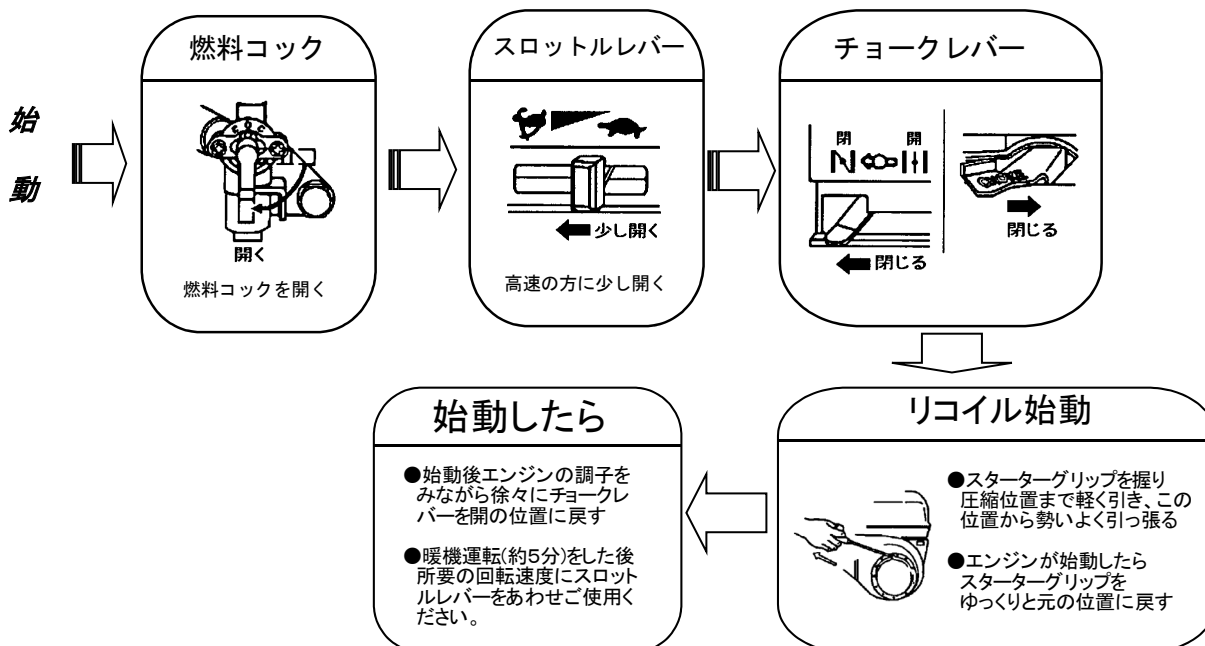
運転前に必ずエンジンオイルを検油棒にて確認してください。
本機はオイルセンサー付きです。オイルが最低レベルの場合、焼付防止のためエンジンがかかりません。最高レベルまで注油してください。

- ③操作スイッチ、圧力調整つまみの確認

操作スイッチを[標準]にし、圧力調整つまみを[低側]に回しておく



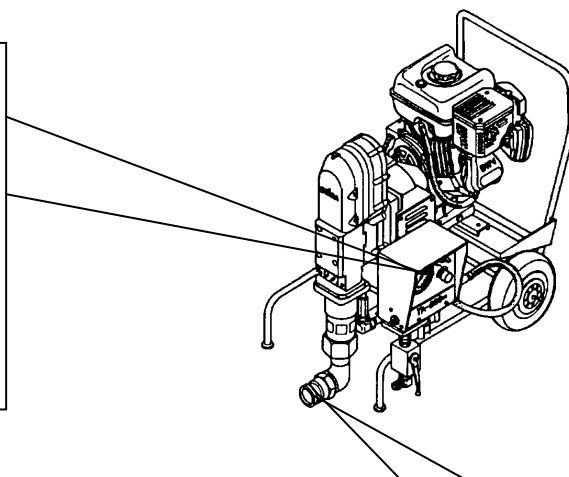
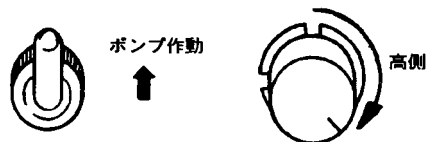
- ④エンジン始動(詳しくはエンジン取扱説明書を参照)



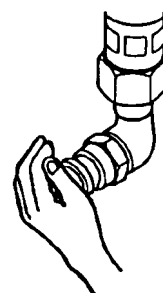
4 作業操作手順

4-1 作動点検と作動確認

- ⑤プランジャーポンプの作動方法
操作スイッチを[ポンプ作動]にし
圧力調整つまみを[高側]へポンプ
が動き出すところまで回す。
※ポンプが作動します。



- ⑥吸い込み確認
作動中、本機の吸い込み
口を手のひらでふさいで
吸い込みがあるかどうか
確認します。



⚠ 警告

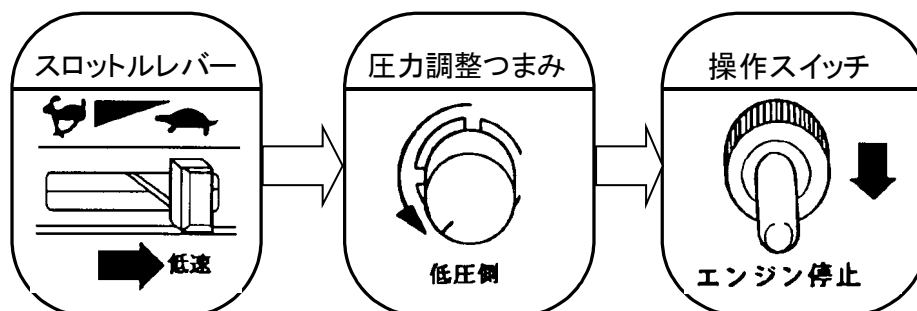
可動部に手や指を入れないで下さい。
重大なケガを負う危険があります。

⚠ 注意

- 冬場0℃以下になる場所に保管しておくと、ポンプの残りが凍結しそのまま作動させるとポンプが破損する場合があります。暖かい場所に置いて完全に解凍してから運転してください。
- 塗料ホース取付口やリターンコックからポンプ内の残り水が出る場合がありますので周囲にかからないように注意してください。
- 30秒以上の空運転は避けてください。パッキンの寿命を著しく短くします。

⑦停止

圧力調整つまみを[低側]に戻し、操作スイッチを[エンジン停止]にして作動点検を終了させる。



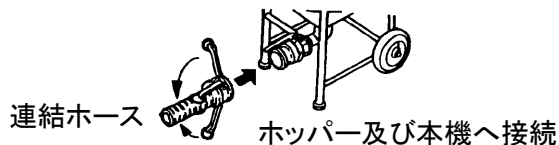
4 作業操作手順

4-2 作業開始

①各付属品の取付け

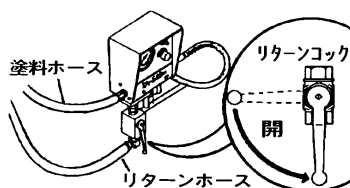
ホッパー・連結ホース

- a. しっかり差し込んだ後レバーをホース側に倒す。



塗料ホース・リターンホース

- b. 塗料ホースとリターンホースの取付け場所を間違えないように注意



エアレスガン

- c. この時点ではまだノズルチップは取付け
ないでください



※塗料ホースは付属工具によって確実に締付けて下さい。圧力がかかります。緩んでいると漏れの原因になります。

- ②塗料を入れる前に(塗料の通りを良くするため、塗料ホース内の水通しを行います。)
ホッパー内に水(水性塗料の場合)10L程を入れ、ホッパーの燃料コックを開き
「作動点検と始動確認」の項③～⑤の要領で運転させてください。リターンホース
から水が出てきたら、エアレスガンの引金を引いて、リターンコックを閉じ、ホッパー
内の水がなくなったら操作スイッチを「準備」にし、ポンプを停止させてください。

③塗料をホッパーに入れる

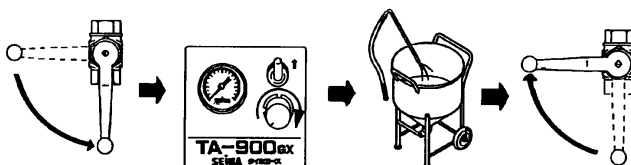
塗料は、塗料メーカーの指示に従い、規定量の希釈で十分なかくはんを行ってください。

⚠注意

材入りの塗料(リシン、スタッコ、ヒル石等)は吹付けできません。

④塗料の圧送

- a. リターンコックを開き、ポンプを作動させリターンホースより塗料が出てきたら
リターンコックを閉じてください。



- b. エアレスガンより水が出てから塗料が出てきます。引金を戻し、目的に合ったノズル
チップ、又は玉吹きヘッドを取付けてください。
(→エアレスガン、玉吹きヘッド操作方法P12～P14参照)

4 作業操作手順

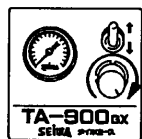
4-2 作業開始

- ⑤吹付中、クラッチが頻繁に断続してポンプが動いたり止まったりしない程度に圧力調整つまみとエンジンスロットルレバーを調整し、作業を行ってください。クラッチ焼けの原因になります。

調整のポイント：吹付けに必要な圧力は、ホースの太さ、長さ、及び塗料の粘度、又は、ノズルチップのサイズ、吐出量(エンジン回転数)等の条件により必然的に決定されます。

●クラッチが頻繁に断続する場合

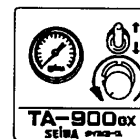
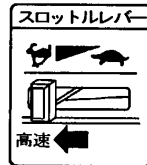
エンジン回転 低く
圧力設定 高く



高側

●吹き溜まりが多い場合

エンジン回転 高く
圧力設定 低く



低側

吹付け圧力の目安：エアレス吹き・・・120～160 kgf/cm²
(主としてノズルチップのサイズで決まります。)
：玉吹き・・・・・・・・50～70 kgf/cm²
(主として塗料の粘度によって決まります。)

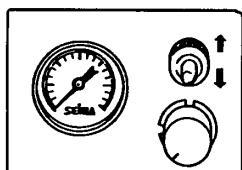
⚠ 警告

作業を行わない時やノズルチップを交換する時は必ずエアレスガンのセーフティーロックをかけてください。誤って引金がかかると思わぬ事故を招きます。

4-3 作業中断・停止

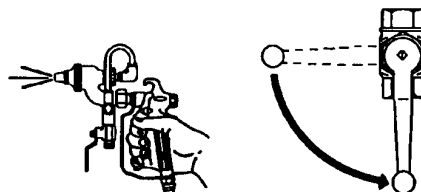
- ①コントロールボックスのスイッチを[準備]にしてください。

エンジンは作動していますが
ポンプは停止しています



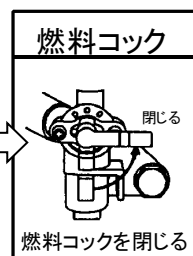
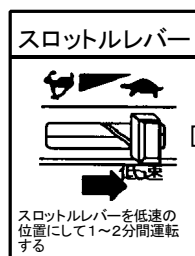
準備

- ②エアレスガンからある程度圧力を逃がし、続いてリターンコックをゆっくりと開いて下さい。



- ③エンジンのスロットルレバーを戻し、スイッチを[エンジン停止]にしてエンジンを停止させてください。

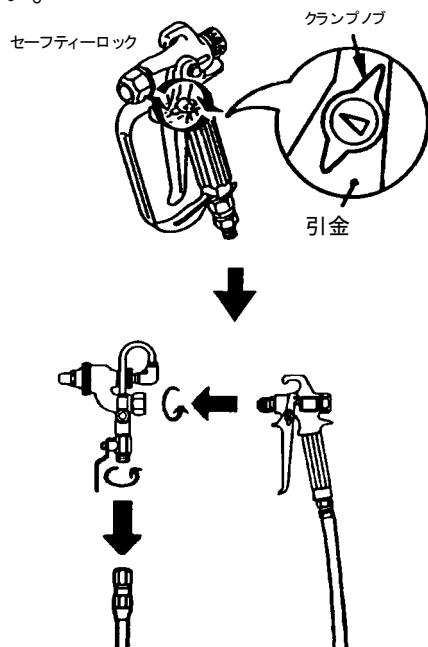
停止



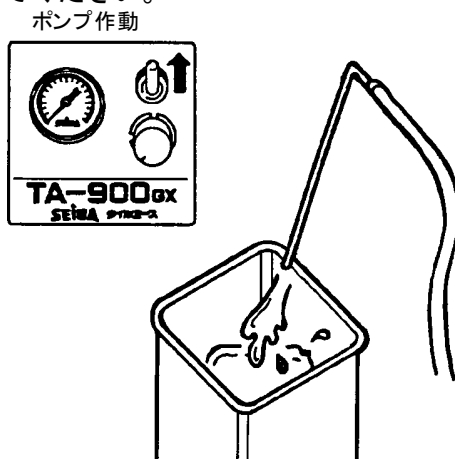
4 作業操作手順

4-4 終了・洗浄

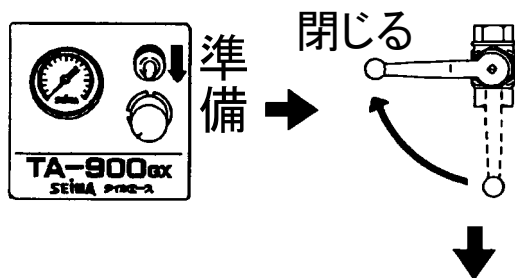
- ①エアレスガンのセーフティーロックをかけノズルチップ又は玉吹きアタッチメントを外してください。



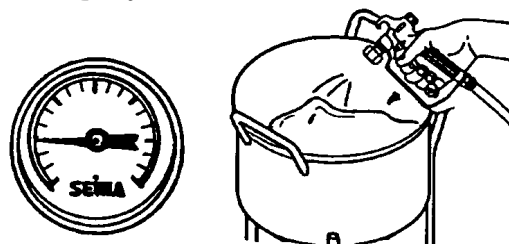
- ②リターンコックが開いていることを確認し、ポンプを作動させ、ホッパー内の残塗料を抜いてください。



- ③スイッチを[準備]にし、リターンコックを閉じ、ホッパーに10L程度の水を入れてください。



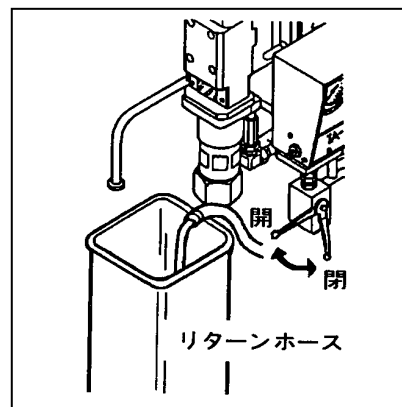
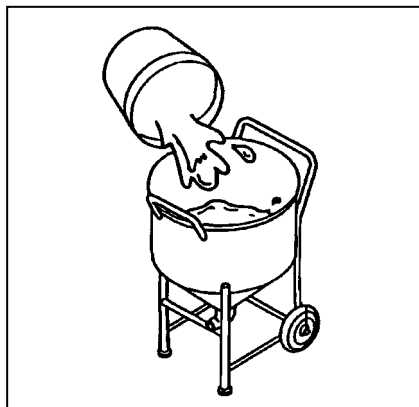
- ④圧力を50kgf/cm²程度にし、エアレスガンの引金を引いてホース内の塗料を押し出してください。
圧送出来ない場合は圧力の設定を少し高めにして下さい。



4 作業操作手順

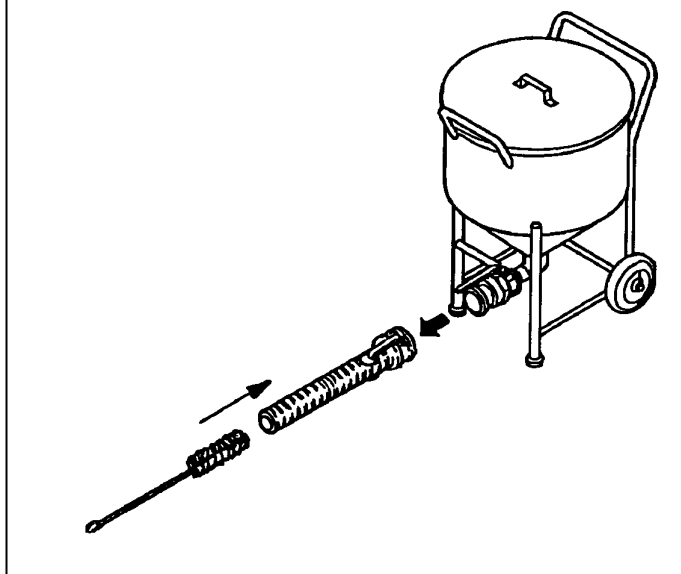
4-4 終了・洗浄

- ⑤ホース内の塗料が出ましたら、更に10L程度の水を入れ、ガンをスプレーロックさせてホッパー内に戻し、循環させながらホッパー内部の掃除を行ってください。
この時リターンコックを開閉してリターンホース内も洗浄してください。

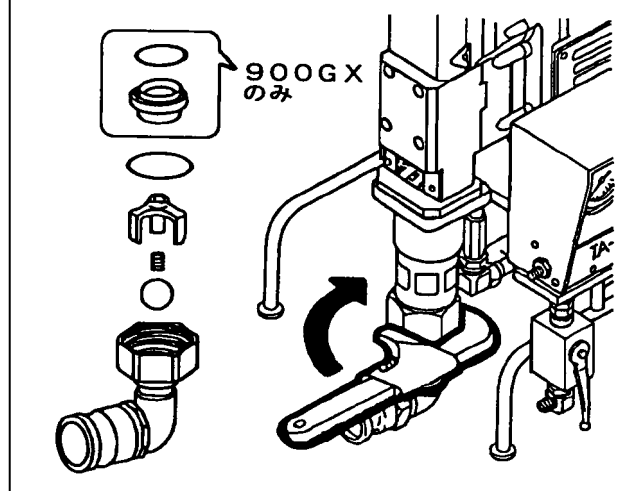


- ⑥循環が終わりましたら、ホッパー内の水をエアレスガンから抜いて、再度水を入れて掃除・排出させてください。

- ⑦連結ホースを外してホース内をブラシで洗浄してください。



- ⑧吸い込み口のナットを外し十分に洗浄してください。
この時ボールバネを紛失しないように注意してください。



⚠注意

本体の分解洗浄を行う時は必ずエンジンを停止させてから行ってください。

- ⑨ノズルチップ又は玉吹きアタッチメントも十分洗浄してください。
⑩分解洗浄したものを組立て、ホース・ガンを取り外して終了です

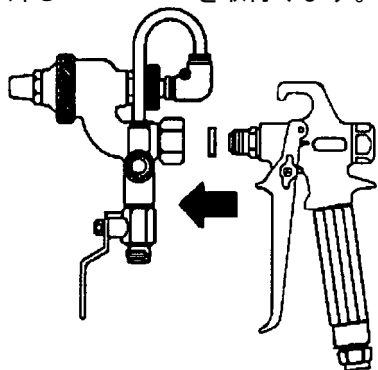
⚠注意

長時間ご使用にならない場合はエンジンのガソリン抜き燃料コックを閉じておいてください。

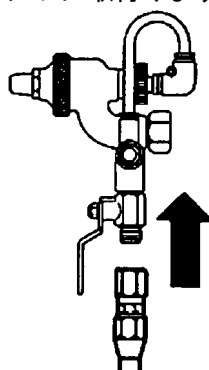
4 作業操作手順(玉吹きガンの操作)

4-5 玉吹きガンの操作

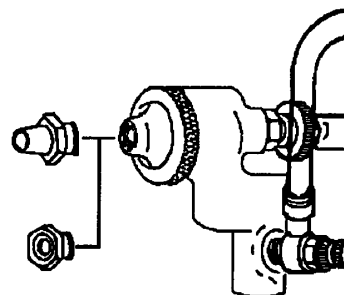
①エアレスガンのノズルキャップ外しATH-2を取付けます。



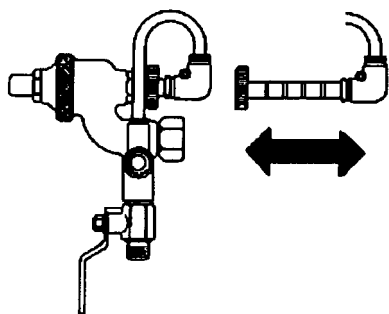
②エアーホース(PF1/4)をボールバルブに取付けます。



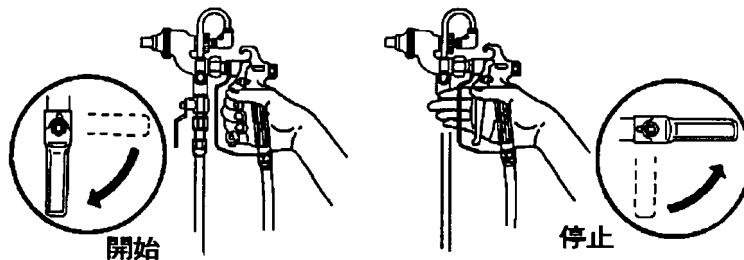
③ミックスキャップの先端に用途に応じたノズルをセットし、ニードル絞り弁を回してエアー量を調節します。



④エアーパイプの位置を前後させ位置を調節します。



⑤試し吹きの後、塗装を開始してください。その際必ずボールバルブを先に開いてから、エアレスガンの引金を引いてください。塗料を止める時は逆に、引金を放してからボールバルブを閉じてください。



⚠ 注意

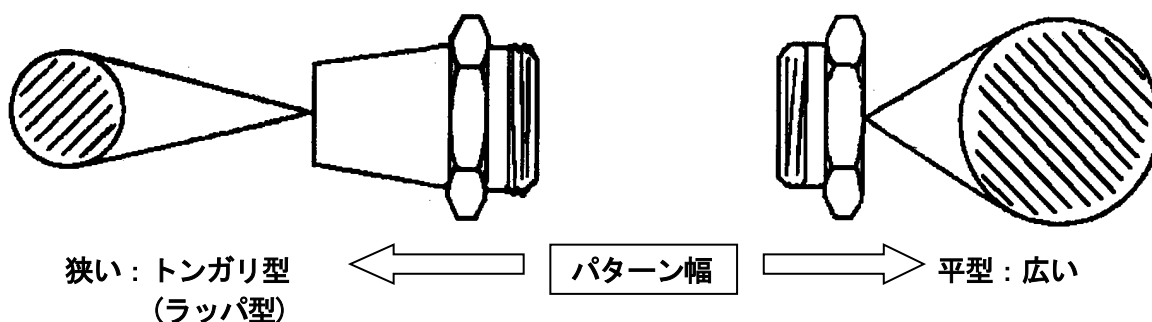
エアーが詰まった状態で塗料が出ると、エアー通路に塗料が逆流して詰まりの原因となります。

4-6 パターンの調整

| | | ベース吹き(ワイヤー等) | 小←玉吹き→大 |
|-----------|----------|--------------|-------------------|
| エアーノズル径 | | φ 2.5 | |
| ミックスノズル | ラッパ型ノズル系 | —— | φ 4—φ 5—φ 6 |
| | トンガリノズル系 | —— | φ 4—φ 5—φ 6 |
| | 平ノズル系 | φ 4.5 | φ 4.5—φ 5.5—φ 6.5 |
| エアーノズルの位置 | | 前 | 前——後 |
| エアー量 | | 多 | 多——少 |
| 塗料粘度 | | 低 | 低——高 |

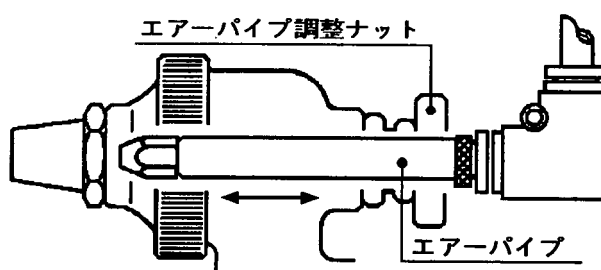
4 作業操作手順(玉吹きガンの操作)

4-6 パターンの調整



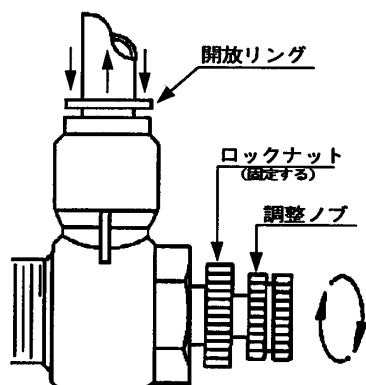
●エアノズルの位置調整

エアパイプ調整ナットをゆるめ、
エアパイプを任意の所で固定します。



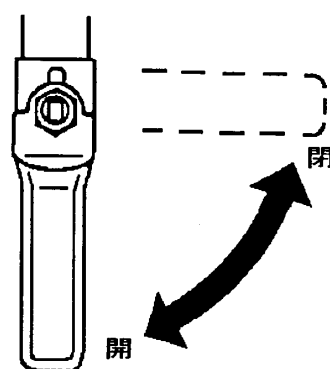
●エア開閉及びエア量調整

a ニードル絞り弁



調整ノブを
締める
少
↑
エア量
↓
多
緩める

b ポールバルブ



⚠ 注意

ボールバルブはエアの開閉のみで、エア量の調整はニードル絞り弁で行ってください。

4-7 洗浄・保守

⚠ 注意

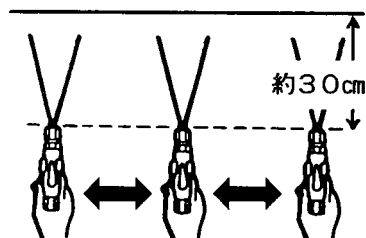
使用後は必ず洗浄してください。その際細かい部品をなくさないよう注意してください。

- エアパイプ、及び樹脂チューブの取り外しは、開放リング(赤い部分)を押したままエアパイプあるいは樹脂チューブを引っ張ると抜けます。
- パッキンが磨耗すると、ピストンロッド上部より塗料が漏れてきます。漏れたらピストンロッドに傷、磨耗がないか確認してパッキンを交換してください。

4 作業操作手順(エアレスガンの操作)

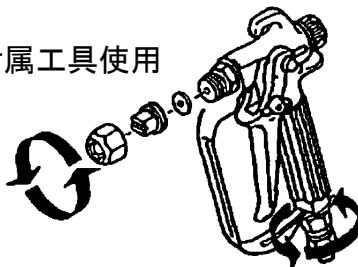
4-8 エアレスガンの操作

- ①ガンは塗装面に向けて、約30cmの間隔を保ち一定の速さで平行に移動



- ②ノズルチップとガンフィルターの取り外しは図のようにしてください。ノズルチップが詰まった場合は、ノズルチップを外してエア等で逆方向から吹付けて除去してください。取付けの際にはパッキンが入っているか確認してしっかり吹付けてください。

付属工具使用



手又は付属工具使用

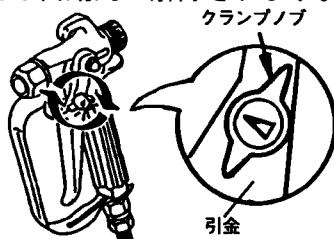
△注意

圧力がかかった状態では絶対にノズルチップの交換やフィルターの取り外しはしないでください。塗料が吹き出し危険です。

4-9 クランプノブの使い方

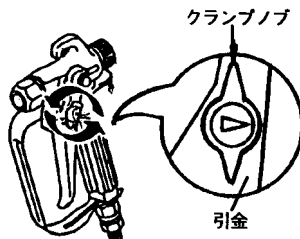
スプレーロック(連続吹付)

引金を引いた状態でノブの矢印がガン先を向くように回しながら引金を離します。再度引き直せば自動的に解除されます。



セーフティーロック(安全停止)

引金を引かない状態でノブの矢印がハンドル側を向くように回します。



△注意

- 安全の為塗装作業を行わない時やノズルチップを外す場合は必ずセーフティロックをかけてください。
- 塗料等が固着すると動かなくなることがありますので洗浄・注油等を行ってください。

4-10 ノズルチップ口径とガンフィルター

| チップ口径 インチ(mm) | フィルター メッシュ／リング色 | 適応塗料 |
|------------------|--------------------|--------------------------------------|
| 0.026(0.66)以上 | ※40／緑 | 圧塗型タールエポキシ、各種高粘度塗料 |
| 0.031(0.79)以上 | なし | 弾性タイル、フィラーアルマネーション 延焼防止塗料、水性無機ジンク |

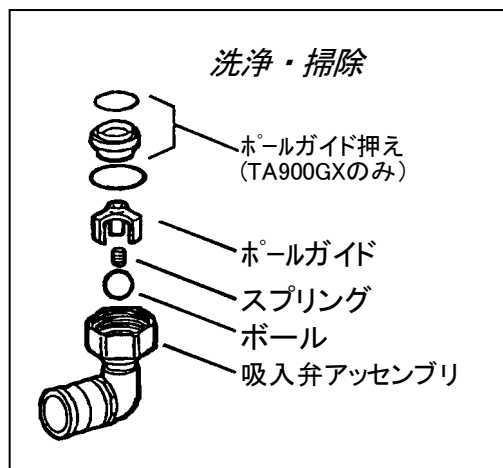
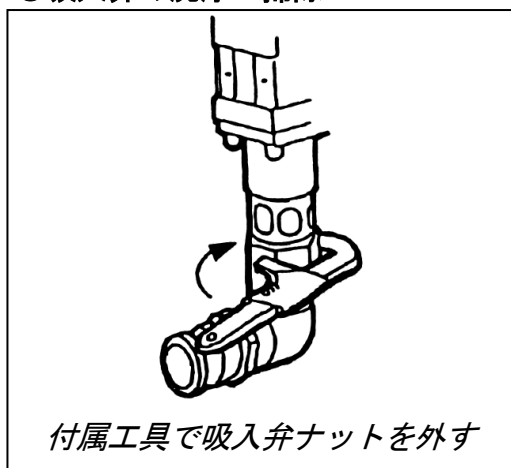
△注意

使用後は、次回に備えて必ず洗浄し、大切に扱ってください。ハンドル内部のガンフィルターは取り外してブラシ等で洗浄して下さい。

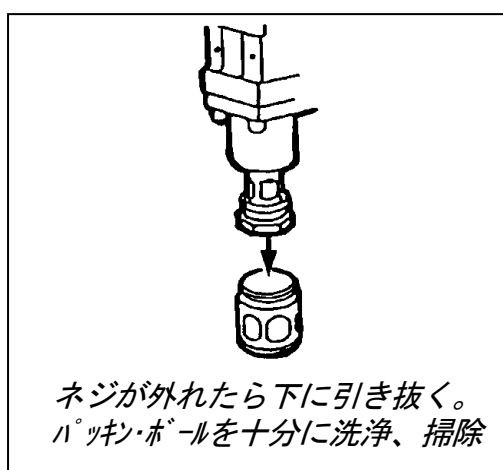
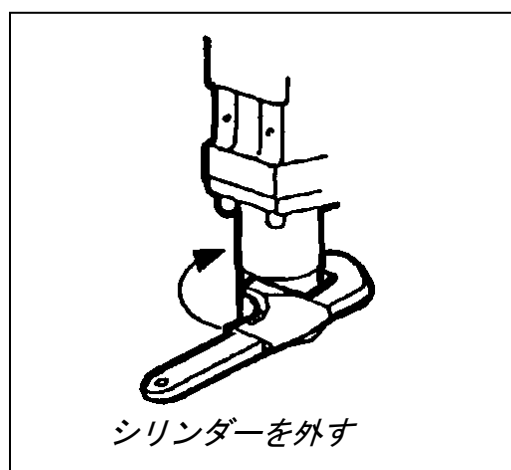
5 上手な使い方と保守・点検

急に圧力が上がらなくなったり、塗料が吸い込まれなくなったら

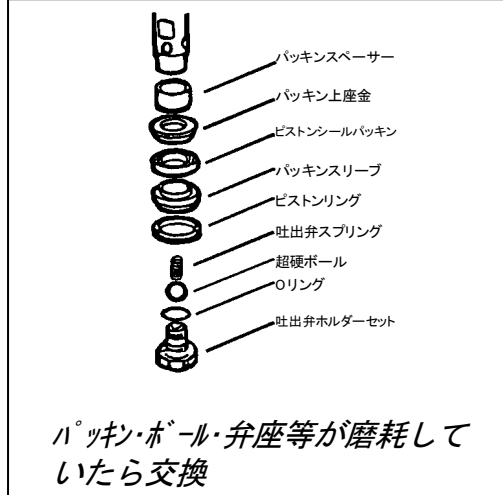
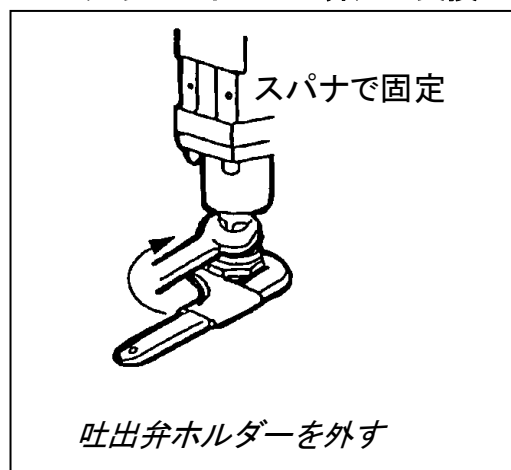
●吸入弁の洗浄・掃除



●ピストン・パッキン・吐出弁の掃除



●パッキン・ボール・弁座の交換



⚠注意

- 必ずエンジンを止めて行って下さい。
- 掃除・交換後は分解の逆の手順で部品の入れ忘れ、向き間違いがないよう注意し、しっかり締付けて下さい。締付け不良は部品を破損させる原因になります。
- 塗料の固着防止の為作業終了後は吸入弁の洗浄掃除は必ず行い、吸入口より水等を吸い込ませておきましょう。

6 トラブル対策

故障はできるだけ早期に発見して適切な対策をとることが大切です。次の表を参考に処置して下さい。修理不明な場合は、弊社営業所、又、お買い上げ販売店までご連絡ください。

| 現 象 | 原 因 | 対 策 |
|---|--|---|
| エンジンがかからない 又は止まる | <ul style="list-style-type: none"> ●ガソリン切れ ●燃料コックが閉じている ●コントロールボックスのスイッチが[エンジン停止]になっている ●ガソリンに水又はゴミが混じっている ●点火プラグの汚れ ●オイルが足りない | <ul style="list-style-type: none"> ●ガソリン補給 ●燃料コックを開ける ●スイッチを[準備]にする ●ガソリンタンク、カップ、フロートチャンバキャブレッタを分解掃除 ●プラグの掃除又は交換 ●オイルを入れる |
| エンジンはかかるが ポンプは作動しない | <ul style="list-style-type: none"> ●スイッチが[ポンプ準備]になっている ●設定圧力が低い ●エンジン発電部の故障 ●配線、端子等の外れ又は断線 ●制御回路部の故障 | <ul style="list-style-type: none"> ●スイッチを[ポンプ作動]にする ●圧力設定つまみを右へまわす ●修理 ●配線確認、外れていれば結線 ●修理 |
| 最大(設定)圧力が低い | <ul style="list-style-type: none"> ●圧力調節の不良 ●圧力計の詰まり | <ul style="list-style-type: none"> ●圧力調整をする ●部品交換 |
| スイッチを[準備]にして もポンプが止らない | <ul style="list-style-type: none"> ●電磁クラッチの焼け ※焦げくさい匂いがする | <ul style="list-style-type: none"> ●部品交換 |
| ポンプは作動するが 圧力が上がらない | <ul style="list-style-type: none"> ●塗料不足又はエア吸い込み ●吸入弁部、吐出弁部へのゴミ、加の詰まり又は不良 ●ピストンシールパッキンの磨耗 ●高圧コックのパッキン磨耗 リターンホースより材料が戻ってしてしまう | <ul style="list-style-type: none"> ●塗料補給、エア抜きコックを開けエアーを抜く ●分解・洗浄又は部品交換 ●部品交換 この時スライドリング、ピストンリング部の塗料がも取り除いてください ●部品交換 |
| 異常高圧(180kgf/cm ²) になる | <ul style="list-style-type: none"> ●塗材ホースが細い又は短すぎる | <ul style="list-style-type: none"> ●塗材ホース 12mm×30mm 以上にする |
| 圧力は上がるが吹き始 めると圧力が下がって しまう。吐出量が少ない | <ul style="list-style-type: none"> ●塗料粘度が高すぎる | <ul style="list-style-type: none"> ●希釈する |
| 圧力は上がっているが 吐出量が少ない | <ul style="list-style-type: none"> ●塗材ホースが細い ●塗材ホースが長すぎる ●塗料粘度が高い ●ガンの詰まり | <ul style="list-style-type: none"> ●ホースの太いものを使う ●ホースを短くして使用する ●希釈する ●分解掃除 |
| 玉吹きガンのエアーが 弱い | <ul style="list-style-type: none"> ●[ATH-2]のエアノズルの詰まり エアパイプの詰まり エアチューブの詰まり | <ul style="list-style-type: none"> ●分解掃除 |

タイルエース運転開始前に必ず下記空欄に必要な事柄を
記入して下さい。点検の時に大変役に立ちます。

| 項 目 | ご 記 入 欄 | | |
|--------|----------------|-----------------|---------|
| 型 式 | TA-500GX/900GX | ご使用開始年月日 | |
| 製造番号 | | ご 購 入 先 (必須) | |
| ご購入年月日 | | ※必ずご記入ください | TEL () |

アフターサービスについて

保証規定

1.保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

2.適用除外 ●保障期間中でも下記の場合には適用いたしません

- (1) 不当な修理や改善による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス外、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱い上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、摺動部の磨耗およびパッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

3.本書はお買い上げの納品書(納入口が記載されていることを確認)とともに大切に保管してください

ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いしています～
同封の保証書に必要事項をご記入いただきFAXいただくか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。
ホームページ経由でご登録いただきますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、
便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。

是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

・登録場所/精和産業トップページ右側「保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

ここからも登録できます→



修理サービス

修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

SEIWA 精和産業株式会社

浜松配送センター

〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

| | | | |
|---------------|----------|------------------|------------------|
| 仙 台 | 981-1105 | 仙台市太白区西中田6-15-13 | TEL 022-241-2145 |
| 群 馬 | 371-0854 | 群馬県前橋市大渡町1-8-6 | TEL 027-251-3457 |
| 東 京 | 136-0072 | 江東区大島5-12-7 | TEL 03-3638-6911 |
| 神 奈 川 | 242-0029 | 大和市上草柳8-28-18 | TEL 0462-63-3029 |
| 名 古 屋 | 453-0839 | 名古屋市中村区長茂町4-15 | TEL 052-412-1717 |
| 大 阪 | 547-0001 | 大阪市平野区加美北8-1-18 | TEL 06-6794-3511 |
| 岡 山 | 710-0841 | 倉敷市堀南606-1 | TEL 086-426-5200 |
| 福 岡 | 816-0912 | 大野城市御笠川1-8-7 | TEL 092-504-7213 |
| エス・ディー ツール | 891-0175 | 鹿児島市桜ヶ丘2-22-10 | TEL 0992-75-7550 |
| 塗機商事 | 903-0124 | 中頭郡西原町呉屋108-6 | TEL 0989-43-4495 |